

## デジタルサイネージワーキンググループの当面の進め方（案）

### 1 検討にあたって必要な視点

#### (1) 言葉の壁、視覚や聴覚等の障がいを乗り越えた情報受発信の実現

- ・訪日外国人や障がいのある方に ICT がどう貢献できるか
- ・デジタルサイネージシステムで多言語や障がい者のサポートに対応するためにはどのような形で実現できるか  
(例：多言語翻訳技術や無線通信技術（見えない看板）の活用、言語や手話のサポート、共通プラットフォーム構築等)
- ・訪日外国人、障がいのある方が必要な情報は何か  
(例：競技情報、観光情報、交通情報、バリアフリーマップ等)
- ・どこに設置すべきか 等

#### (2) 競技会場にいけない方等との臨場感あふれるオリンピック・パラリンピックの感動を共有

- ・全国各地の公園等に設置された大型スクリーンにおいて、8Kパブリックビューイングの実施 等

#### (3) レガシー、全国(各地域)への展開

- ・オリンピック以降も活用できる資産として何を残していくのか  
多言語対応や、災害時の情報発信に活用するデジタルサイネージ  
これらの仕組みについて全国へ展開し、地域活性化、地域への訪日外国人誘致への活用

### 2 検討事項（案）

#### (1) アクションプランの検討(「いつまでに」、「誰が」、「何を」)

##### ①クラウドシステムの構築

- デジタルサイネージでの表示が想定されるコンテンツ
  - ・競技大会の情報（選手情報、競技情報、ルール、スケジュール等）
  - ・交通情報等（音声、表示両面での実現）
  - ・バリアフリーマップ
- クラウドシステムで活用する翻訳技術
- デジタル無線通信技術等の活用によるマルチデバイス連携  
デジタルサイネージとスマートフォンやタブレット等の端末間の無線通信技術
- クラウドシステムの運用体制、スケジュール

##### ②ICT ショーケース

- デジタルサイネージのショーケース（街全体としての導線の確保、生活圏や商業圏での利活用の浸透 等）の検討

##### ③デジタルサイネージを活用したパブリックビューイングの環境整備

- 4K 8K のデジタルサイネージを活用したパブリックビューイングの実現に向けた検討

#### (2) 推進体制について

- アクションプランを推進していく体制の整備検討